

子どもたちの笑顔を増やすための
暮らし・遊び・学びの指標

すまいる・あくしょん



目次

| | |
|------------------------|--|
| 1、すまいる・あくしょんについて | … 2 |
| 2、7つのテーマとメッセージ | … 3 |
| 3、すまいる・あくしょんテーマについての解説 | … 5 |
| ①感染症対策について | ・子どもの声(アンケート)調査結果より ・子どもの声(アンケート)自由記述より ・有識者・子どもと関わる方へのヒアリング結果 |
| ②子どもたちの声、思いについて | |
| ③心と身体の健康について | |
| ④居場所・相談相手について | |
| ⑤運動・遊びについて | |
| ⑥体験・学びについて | |
| ⑦オンライン交流・学習について | |
| 4、策定について | …34 |

今、子どもたちの笑顔を増やすためにできること 新たな行動様式『すまいる・あくしょん』について

新型コロナウイルス感染症（以下、「コロナウイルス」という）の感染拡大により、子どもたちの遊びや学び、ふれあいなどの様々な体験の場所や機会はあきらかに減ってしまいました。

滋賀県ではコロナ禍における子どもたちの休業中や学校再開後の生活の様子、心境などを把握するために、小学生、中学生、高校生、大学生等及び未就学児の保護者を対象とした大規模なアンケートを実施し、その調査結果をもとに国が示す社会全体としての「新しい生活様式」とは少し違う視点で子どもたちが生き活きと育つための新たな行動様式『すまいる・あくしょん』を作成しました。

子どもたちにとって、このコロナ禍での長期間にわたる休業の経験は、人と人とのつながりや学校や友達の存在について考えるきっかけにもなりました。これからは、社会全体がコロナウイルスの感染防止対策ばかりを優先し、「何もしない」、「何もできない」という考え方になるのではなく、可能性に満ちあふれた子どもたちの成長や学びのためにできることを考えていかねばなりません。

『すまいる・あくしょん』は、まさにコロナ禍で大きな影響を受けた子どもたちの未来へつなげる指標です。この『すまいる・あくしょん』を子どもの笑顔を増やすための行動様式として保護者の方だけでなく、保育所や幼稚園、小中高の教育関係者など子どもと関わる全ての方においても広く活用していただきたいと思っています。ウィズコロナ・ポストコロナを見据えて、今、一人ひとりが行動できることを考え地域の子どもたちの笑顔を増やしていきましょう。

すまいる・あくしょん

すまいる・あくしょん⑦

オンラインを
活かすための
環境を整備する

すまいる・あくしょん①

正しい情報を
選んで伝える

すまいる・あくしょん②

子どもの声を
聞いて一緒に考える

感染症を
正しく知って
行動しよう

オンラインを
上手に活かそう

今の気持ちを
伝えよう

すまいる・あくしょん⑥

文化・芸術・自然・社会に
触れる体験を増やす

わくわく感動する
気持ちをもとう

すまいる・あくしょん③

心と身体の
健康を支え
思いやりを育む

自分も
周りの人も
大切に

身体を動かして
しっかり遊ぼう

頼れる
人や場所を
見つけよう

すまいる・あくしょん⑤

のびのびと
遊び、育つための
環境を守る

すまいる・あくしょん④

人とのつながりや
喜びを感じられる
居場所をつくる



すまいる・あくしょん 啓発普及のためのデザイン



■ 啓発普及のためのキャラクター

■ 指標を示す あくしょんマーク



すまいる・あくしょん
01
感染症を正しく知って
行動しよう



すまいる・あくしょん
02
今の気持ちを伝えよう



すまいる・あくしょん
03
自分も周りの人も大切に



すまいる・あくしょん
04
頼れる人や場所を見つけよう



すまいる・あくしょん
05
身体を動かして
しっかり遊ぼう



すまいる・あくしょん
06
わくわく感動する
気持ちを持つよう



すまいる・あくしょん
07
オンラインを上手に
活かそう

すまいる・あくしょん ① 感染症対策について

- ▶国が示している新しい生活様式や感染症対策は、特に未就学児には実践が難しい。
- ▶学校休業中、小学生(高学年)から高校生までの約70%が「自分や家族が感染しないか心配だった」と回答し、学校再開後も小学生(高学年)から高校生までの約80%の子どもたちが「今後また感染が広がらないか不安である」と回答している。
- ▶子どもたちはコロナウイルスに対する様々な情報への不信感を感じているほか、「自分ができる感染予防についていろいろ学ぶきっかけとなった」「与えられる情報を自分で正しく取捨選択することが大切」という声もあった。
- ▶有識者からは、「正しく恐れることは難しい」、「メディア(テレビ、ネットなど)の情報に振り回されず、冷静に対応すべきで、一方的な偏った情報については十分気を付ける必要がある」などの意見があった。

すまいる・あくしょん①への導き

【子ども】→感染症を正しく知って行動する
情報を冷静に選び、自分の頭で考えて行動する

【大人・社会】→最新の正しい情報を子どもたちへ分かりやすく伝えていく必要がある
→コロナだけでなくすべての感染症を想定しながら、状況に合わせた対策を継続していく



● 感染症を正しく知って行動しよう

● 正しい情報を選んで伝える

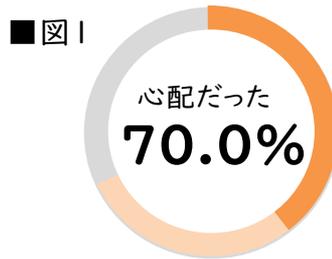
子どもの声 (アンケート) 調査結果 / ①感染症対策について



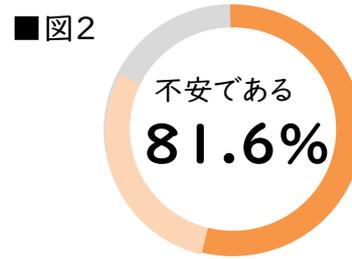
図1-◆コロナウイルスに自分や家族が感染しないか心配だった →報告書P22

図2-◆今後また感染が広がらないか不安である →報告書P41

図3-◆感染防止対策(友だちとの距離など)により、ストレスを感じたり、さみしいと思うことがある →報告書P38



あてはまる 41.1%
少しあてはまる 28.9%



あてはまる 53.7%
少しあてはまる 27.9%



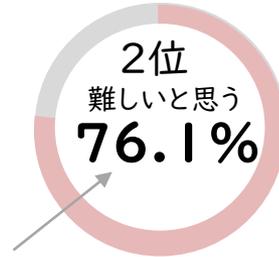
あてはまる 17.0%
少しあてはまる 22.3%



◆国が示している新しい生活様式や感染症対策について、子どもたちにとっては実践が難しいと思うことを教えてください →報告書P68



人との間隔は、できるだけ
2m空ける



会話をする際は、可能な限り
真正面を避ける



外出時や屋外でも会話をするとき、
人との距離が十分にとれない場合は、マスクを着用する

◆子どもの声（アンケート）自由記述より

- 未就学児の保護者 / ・もっと情報を開示してほしい。新しい生活様式するにしても情報を正しく知り活用する事が大事だと思う。・誹謗中傷しない為にはどうするかの話をする上でも情報は大事。・情報がなさ過ぎで不安や心配で遊ばせてあげられない。・風評被害が怖いです。こんな時だからこそ優しい心で接する世であってほしいと思います。
- 小学生 / ・コロナがこわいと知ったから感染予防をがんばろうと思った。・またこのような事態になってほしくないなので対策していきたい。
- 中学生 / ・自分ができる感染予防についていろいろ学ぶきっかけとなった。・なんでもかんでも「疑う」ことも大切だと発見した。・自分でも感染しないように、工夫したりしようと思った。・コロナウイルスがこわいのでうがいや手洗いをしっかりするようになった。
- 高校生 / ・コロナが広がらないようにまずは自分ができる手洗いやうがい、マスク着用を心がける。・コロナがとても流行している中、家でウイルスについて調べたりして対策を万全にできたから良かった。
- 大学生 / ・体調が悪くなるとコロナかと思う。・大学生だけが自粛を強制されている現状が理不尽に感じて、精神的に辛い。・自分も感染しない、相手に感染させない、ということ意識することで自分により責任感を持つことができた。・情報を鵜呑みにしてはいけない。・与えられる情報を自分で正しく取捨選択することが大切。

- ・相手の思いに気づきにくい子にとってもマスクは問題だと感じている。
- ・文科省から学校での新しい生活様式についてのガイドラインが出ているが、もっと全ての子に対応するものが必要。
- ・どこまで行動を制限させればいいのか悩む。保育中の不安はずっとある。・全体的に子どもたちがおとなしくなった気がする。
- ・コロナに限らず、メディア(テレビ、ネットなど)の情報に振り回されず冷静に対応すべきで、一方的な偏った情報については十分気を付ける必要がある。
- ・高齢者と子どもでは新型コロナの危険の度合いが違う。高齢者は重症化しやすく、高齢者と同居する子どもはまた違う注意が必要。
- ・子どもが祖父母の家に行かざるをえなかったという状況は、高齢者が重症化しやすいという観点からいうと、少し気がかりである。
- ・子どもによって意識の差がある。敏感になっている子は、会話するのも躊躇している感じ。
- ・「生徒の手の消毒を徹底してほしい」という保護者と「(常在菌が死滅して免疫が落ちるので)消毒はさせないでください」という保護者がいて対応に悩む。
- ・コロナに関しては、1/100にするだけでリスクは下がる。感染症対策について具体的にわかりやすいサイトを作らなければいけない。
- ・何人までなら集まっていいかなどの基準が分からず、保護者も心配している。・大人も国も混乱していて、何が正しいのか難しい。
- ・正しい知識を知れる場所、方法が確立していないので、専門家が作らないといけないと思う。
- ・信頼できる情報や知見を日々更新し、情報収集しながら、管理職が総合的に判断することが求められる。
- ・正しく恐れることは難しい。今回も、こわがりすぎだと思っている。必要以上におそれ、自粛が続いている。
- ・自粛によるリスク評価をすると、子どもにとってはマイナスだった。
- ・感染症予防を意識しすぎるものよくない。「健康づくりにつとめよう」という気持ちで取り組んでいくべき。
- ・コロナにとらわれ過ぎ。今回のコロナの経験を生かして次にどうするのかということだから、コロナのことは忘れてもいい。
- ・感染症対策は手洗いで十分ではないか。マスクについては言及する必要がないと思う。手洗いでかなりの確立で感染症を防げる。
- ・休業中に子どもたちが遊んでいると近所の方から苦情が出た。地域の人への周知や地域の実情に応じたタイムリーできめ細やかな情報発信が大事である。
- ・インフルエンザは0歳近くで感受性が高いが、コロナは半分以下で、インフルエンザと異なり、小児における感受性に高い傾向はみられない。

すまいる・あくしょん ② 子どもたちの声、思いについて

- ▶よかったことや悲しかったことなど小学生から高校生の自由記述欄では子どもたちの様々な思いや考えが溢れていた。
- ▶小学生(高学年)から高校生の約半数が、コロナ禍で発見できたことや伝えたいことを回答してくれた。
 - ・このアンケートのおかげで自分が今思っていることを全部かけてきもちがスッキリしました。
 - ・自分を見つめ直す時間ができて、心の整理ができた。
 - ・感染拡大のためとはいえ制限しすぎだと思います。理不尽すぎるように思います。
- ▶大学生が「コロナ禍を経験した今、5年後10年後の滋賀県がこんなんだったらいいな、このようにしていきたいなど考えていること」
 - ・感染症の被害者が加害者かのように扱われない世の中になってほしいと思う。また、医療従事者の現状・気持ちを理解した発言ができる人が増えてほしい。
 - ・最近、SNSでよく「今年の大学1年生は可哀相」という発言を見かけるが、事情をよく知らないで可哀相扱いされるのは不快に感じるし、やはり、推測ばかりで考えるのではなく、知るということが大切だと感じる。

すまいる・あくしょん②への導き

【こども】 →自分の気持ちを周りの人に伝えよう

【大人・社会】 →子どもの声をきいて、子どもたちの笑顔を増やすための取り組みをはじめていく
→ストレスを感じていたり、不安があっても声をあげたり、感情表現できない子どももいる。
自然と気持ちを伝えやすい状況を大人がつくってあげることが必要



●今の気持ちを伝えよう

●子どもの声を聞いて一緒に考える

子どもの声 (アンケート) 調査結果 / ②子どもたちの声、思いについて



◆受験や将来について不安に思うことがある？
あてはまる／少しあてはまると回答した割合

→報告書P37

受験や将来について不安に思う

46.4%

■小学生(高学年)

受験や将来について不安に思う

59.6%

■中学生

受験や将来について不安に思う

76.2%

■高校生

◆子どもの声 (アンケート) 自由記述より

□中学生／

- ・中学3年生で受験生なのに、長期休みが短い。夏休みは大事な時期なのに、学校があるから学習が進まない。冬休みは、学校によって受験生の勉強を邪魔することなく、十分な期間が欲しい。
- ・今年、受験なのでどうなるか不安だけどがんばりたい。
- ・東京などの地域で行われたように、入学試験の範囲を考慮してほしい。

□高校生／

- ・来年に大学入試があるのにオープンキャンパスにあまり参加できていないことに不安を感じる。

□大学生／

- ・「この時代の個性だと思って」とか「withコロナ」とか言う前にまずはもう少し労いの言葉が欲しい。ネガティブな事実にもっと正面から向き合って欲しい。
- ・ただでさえ悪い景気がこれ以上悪くなったらどうなるかという心配。
- ・就職活動に不安がある。・今年受験生で来年には国家試験があるが、十分な勉強時間の確保ができないため大変不安である。
- ・コロナでインターンに行けなかったり、行けなかったりする学生が、就活で不利益を被らないようにしてほしい。

子どもの声 (アンケート) 調査結果 / ②子どもたちの声、思いについて



小学生(高学年) >



中学生 >



高校生 >

◆どのようなことでも良いので発見できたことや伝えたいことがあれば教えてください
という質問に自由記述で回答してくれた人数 →報告書P45~47

小学校高学年~高校生
9676人の子どもたちが
伝えたいことを書いてくれ
ました

全体の
47.4%

小学生(高学年) 2414人 / 48.7%
中学生 3740人 / 53.2%
高校生 3522 / 41.8%人 が記述回答

◆子どもの声 (アンケート) 自由記述より ※発見できたこと、伝えたいこと

□小学生(1~4年生) /

・虹色と影を見つけられた。いっぱい面白いことに会った。面白い学校生活。・入学して楽しいです。
入学式めっちゃたのしかったです!! ・このアンケートのおかげで自分が今思っていることを全部かけてきもちがスッキリしました。

□小学生(高学年) /

・今後は、友だちとの、かかわり方などのアンケートをとってほしいです。・医療関係の人つらいと思いますが、頑張ってください!
・母がいつも笑顔でいることに気づきました。・うみのこをとっても楽しみにしていました。でも1日になりました。その楽しみをどう返してくれるのですか? ・困った時に相談する人がいてほしい。・学校がいやと思うことがおこったけど長い休みで学校にいきたくないという気持ちに気づいた。・自粛でインターネットに触れる機会が増えていて犯罪者もいます。インターネットにかんしての条例を強くしていただきたいと思います。・これ以上不安やストレスを与えて欲しくない。でも私たちにはどうすることもできない。それはとてもくやしいことであり日々不安やストレスを自分もかかえている。・家にいて家族といるときが一番うれしい。・コロナが終わったらいろいろなところで遊びたい。・中学・高校など将来もまだコロナがあったらどうなるか心配です。

子どもの声 (アンケート) 調査結果 / ②子どもたちの声、思いについて

◆子どもの声 (アンケート) 自由記述より

□中学生 / ・普段は考えない事を考える事ができた。・自分を見つめ直す時間ができて、心の整理ができた。・この状況の中でも少しでも思い出に残ることをしてあげようと考えてくれる大人が周りにたくさんいるので、すごくありがたいことだなと思います。・ニュースを見ることが多くなり、社会的にいろいろ知ることができた。・休みがあったとしても、その休みを有効活用したら良いのだなと感じました。・時間さえあれば、いろいろなことに挑戦することができると思いました。・外に出た時に多くの生き物がいることが分かった。・自分に料理の才能があることが分かった。・新しい趣味を見つけた。・コロナの休校で家族との時間が増えたり、家事を手伝ったりできたので、悪いことばかりじゃなかったなと思った。・友達はそばにいてくれるだけで安心し、心が落ち着く大切な存在だとこの休業で分かった。・友達とあまり会えなくなって、改めて友達の大切さが分かった。学校で会えた時はうれしかった。

□高校生 / ・マスクを着用して毎日ウォーキングやランキングをしていたときに自分の街の中でも「知らないところやこんなのがあったんや」などと日頃見られないところが自分の目で見る事ができた。・人間関係は大切にしないとダメだと思った。なぜならしんどい時辛い時、楽しい時幸せな時を共有してうれしいことは2倍に辛い事は半分にできるし支え合えるから。・普段の「当たり前」がどんなにすばらしいことかがわかった。・感染拡大のためとはいえ制限しすぎだと思います。理不尽すぎる(共通テストの動乱、英語外部試験を導入するか否か、新型コロナウイルスの影響で卒業式出席出来ず、学園祭が出来ず、校外学習にも行けず・・・)ように思います。

□大学生 / ・人に直接会って話せることの良さ。・新たな趣味の発見。・オンラインでできることが広がったこと。・自分の住んでいる地域には思っていたよりも素敵な場所がたくさんあったこと。・自分の将来についてじっくり考える時間を設けることができたこと。・医療職に感謝しなければならない。・これまでの何気ない日常生活のありがたみがわかった。・節度のある行動、何か起こった時の協力!自分ができることは何か考え守ること!滋賀を愛すること。



◆子どもの声 (アンケート) 自由記述より

※コロナ禍を経験した今、5年後10年後の滋賀県がこんなだったらいいな、このようにしていきたいなと考えていること

【感染者への差別、風評被害の無い社会】

- ・コロナの影響で引越しをせざるを得ない人がいたと聞いた。感染症の被害者が加害者かのように扱われない世の中になってほしいと思う。また、医療従事者の現状・気持ちを理解した発言ができる人が増えてほしい。
- ・正しい情報が迅速かつ適切に公表され、県民が安心して暮らせる社会。また、このような病気等で差別されることがない社会。
- ・罹患者に非は一切無いのに 個人情報特定し 差別するようなムラ社会やSNSの風潮を脱せれば良いなと思う。

【学習などにオンラインを活かした社会】

- ・オンライン授業やリモートワークの形態を続けることで、通学や通勤によるストレスの無駄を排除し、コロナ禍の状況を逆に利用して生活を豊かにしていけたらいいと思う。
- ・不登校の生徒や何らかの理由で長期欠席をしなければならない生徒でもオンラインで授業の様子を家などで見ることができるようになり、学校に登校するときの不安が減少するようになってほしい。

【困っている人、外国人などに手厚いサポートを行う社会】

- ・金銭的に苦しい生活をしている人だけでなく、勉強面や交友関係などで不安をもっている学生にも県から支援をしてもらえたり、県内の同じ世代の人とつながり会えたり相談ができるようになればいいと思う。
- ・大きい大学病院が欲しい。私の通う大学前の駅には、30分に一本しか電車が来ないため、体調が悪い時など、いざという時に困る。本数を増やしてほしい。
- ・外国人として滋賀県のコロナ禍の状況と対応があまり把握できていない。どこのところが危ないか知らない。その情報が重要なので外国人もわかるようにしてほしいな。

子どもの声 (アンケート) 調査結果 / ②子どもたちの声、思いについて



◆子どもの声 (アンケート) 自由記述より

※コロナ禍を経験した今、5年後10年後の滋賀県がこんなだったらいいな、このようにしていきたいなと考えていること

【コロナ禍での生活に関する希望】

- ・子どもが多い地域なので、幼児や子どもの教育に不利が出ないようにシステムが出来ればいいと思う。
- ・いつかかつての日常が戻ってきて欲しい。まだクラスメートの全員のマスクを取った顔を知らない。前みたいに嬉しいことがあったらハイタッチやハグ、スキンシップをとりたい。
- ・コロナの前のように、自由に行動できるのが一番いいと思う。来年就職がどうなるかもわからない状況で、5年後10年後を想像するのは難しいというのが正直な気持ちである。

【その他の声】

- ・自粛期間中に、県外から琵琶湖に散歩や釣りに来る方が多かったと聞いたので、三密を回避できる湖岸をもっと有効活用できるようになればいいと思います。
- ・方向性をはっきり示してほしいです。小学生や中学生、高校生は毎日通学し、部活動まで行っているのに、大学生だけいつまでもオンライン授業であることに疑問を覚えています。
- ・最近、SNSでよく「今年の大学1年生は可哀相」という発言を見かけるが、事情をよく知らないで可哀相扱いされるのは不快に感じるし、やはり、推測ばかりで考えるのではなく、知ることが大切だと感じる。
- ・コロナ禍で、皆がそれぞれに辛い思いをしていると思う。しかし、なかなか自分のことしか見えていなくて(自分のことだけで精一杯で)他者の辛さにまでは気を配れていないと思う。様々な立場の人のコロナ禍での体験やその中でどう過ごしているか(アフターコロナと呼ばれる今後も含め)ということを知る機会があれば、他者を思いやり、頑張っている人を見て自分も頑張ろうと思ったりするきっかけになると思うので、そういう機会があれば良いと思う。

有識者・子どもと関わる方へのヒアリング結果 / ②子どもたちの声、思いについて

- ・幼児期の子どもたちにとっても自分の意見を大人に聞いてもらっているという実感と経験は必要である。
- ・「子どもの声を聞く」という言い方だけでなく、「こどもの声に耳を傾ける」「温かく見守る」という言葉かけがあるといい。
- ・テレビやスマホを消した状態で一日数分でもいいから子どもと会話をする機会を作ってほしい。

すまいる・あくしょん ③ 心と身体の健康について

- ▶未就学児の保護者は子どもがコロナ禍の生活の中で「子どもたちが疲れやすくなった」「感情表現やスキップについても影響があった」と感じており、今後の成長に影響がないか不安という声があった。
- ▶休業中、小学生（高学年）から高校生までの約35%が「不安に思ったり、イライラすることが増えた」、また約40%が「感染防止対策により、ストレスを感じたりさみしいと思うことがある」と回答している。
- ▶体調面（精神的ストレス等を含む）で困った/少し困ったと回答した大学生は、その他の項目（勉強、交友関係、部活動・サークル活動など）においても困った/少し困ったと回答した割合が高い結果となった。
- ▶休業中、けんかやイライラ、不安が増えたという声があった。また、「コロナの症状よりも感染した時の風評被害のほうが怖い」、「このような緊急事態では、みんなが支え合っていかなければならないのに、デマを流したり、感染者なのに外出して感染を広げる人がいたりして、とても悲しくなった。もっと支え合える国になってほしい」といった声もあった。
- ▶関係者へのヒアリングでも子どもたちの心や身体へのストレスの影響を心配する声があった。

すまいる・あくしょん③への導き

【子ども】→心身を健康に保ち、自分を大切にするだけでなく、周りの人を思いやる気持ちを持つ
→ストレスを感じる事が多い状況においては、互いを思いやる心が必要である

【大人・社会】→子どもたちが安心して生活できる環境づくりや子どもたちの心が安らげる時間をつくる
→他者への思いやりや支えてくれる方達への感謝の気持ちを持つとともに、感染された方達等へのいわれのない差別や誹謗中傷を許さない姿勢を大人から示す



●自分も、周りの人も大切に

●心と身体の健康を支え思いやりを育む

子どもの声(アンケート)調査結果 / ③心と身体の健康について



- 1-◆外出自粛期間中、お子さんの日常生活の様子で変化があったことは? →報告書P64
- 2-◆コロナ禍の中でお子さんの健康・体調面について気になることを教えてください →報告書P67

1-◆

- ・スキンシップを求める、甘えることが増えた…71人
- ・だだをこねることが多くなった…61人
- ・急に怒ったり泣いたり感情が不安定になった…48人

2-◆

- ・疲れやすくなった…29人
- ・食欲がなくなった…23人
- ・夜泣きがひどくなった…21人

◆保護者の声 記述回答より

□不安だったこと

- ・子どもの性格が消極的になったり成長に影響しないか不安
- ・自分や子どもがコロナにかかった時の差別が気になる
- ・お友達や同世代の子と上手くやっていたのか不安

□よかったこと

- ・子どもとゆっくり関わることができた
- ・お手伝いや家の中での遊びで楽しそうに過ごしていた



図1-◆休業中不安に思ったり、イライラすることが増えたか?

あてはまる/少しあてはまると回答した割合 →報告書P21

図2-◆休業中、家族との会話やかかわりが深まった →報告書P10

図3-◆友だちと会えず、さみしかった →報告書P18

■ 図1

不安に思ったり
イライラすることが増えた

34.7%

あてはまる 14.9%
少しあてはまる 19.8%

■ 図2

家族との会話や
かかわりが深まった

70.5%

あてはまる 30.9%
少しあてはまる 39.6%

■ 図3

友だちに
会えず、さみしかった

72.7%

あてはまる 46.2%
少しあてはまる 26.5%

子どもの声 (アンケート) 調査結果 / ③心と身体の健康について



図1-◆休業中、規則正しい生活ができた? →報告書P8

あてはまる/少しあてはまると回答した割合

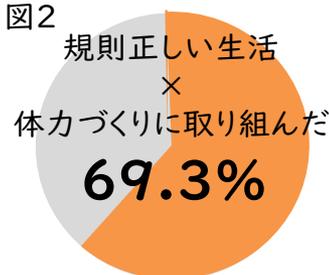
図2-◆クロス集計-休業中、体力づくりに取り組んだ?

図3-◆クロス集計-休業中、学校からの課題にしっかりと取り組んだ?

■ 図1

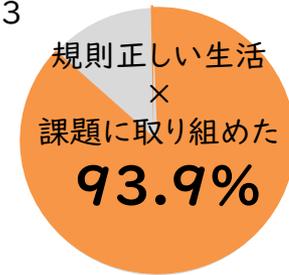


■ 図2



→全体の割合57.5%

■ 図3



→全体の割合89.1%

◆子どもの声 (アンケート) 自由記述より

- 小学生(低・中学年) / ・外に出られないから疲れがたまっちゃって、夜あんまり寝られなかった。・生活リズムが乱れていた。
・ずっと家にいなきゃいけなかったからあまり運動していなかったから困った。・休みの間、レトルト食品やカップラーメンを主に食べていたので夜に下痢になって眠れない日が一週間ほどあった。
- 小学生(高学年) / ・目がちょっと悪くなった。・運動不足で太った。・昼夜逆転生活でいたから戻るのが大変だった。
- 中学生 / ・寝るのは大事。・ゆっくり生きる事も大切。・規則正しく生活する大切さを知りました。
・時々自分をリセットさせた方がいい。・休校期間は、自分の時間の使い方を見直す良いきっかけになった。
- 高校生 / ・マスクや生活習慣による肌荒れ。・コロナの症状よりも感染した時の風評被害のほうが怖い。人間の心理的に弱い所を発見できた。・このような緊急事態では、みんなが支え合っていかなければならないのに、デマを流したり、感染者なのに外出して感染を広げる人がいたりして、とても悲しくなった。SNSで一般人が自論を語るのも見ていてしんどくなった。もっと支え合える国になってほしい。

子どもの声 (アンケート) 調査結果 / ③心と身体の健康について



◆コロナの影響により困ったことについて
困った／少し困ったと回答した割合
→報告書P53

体調面(精神的ストレス等を含む)
について困った

60.8%

交友関係
について困った

55.9%

→体調面(精神的ストレス等を含む)で困った/少し困ったと回答した大学生は、その他の項目(勉強、交友関係、部活動・サークル活動など)においても困った/少し困ったと回答した割合が高い結果となった

◆子どもの声 (アンケート) 自由記述より

□大学生

- ・オンライン授業でパソコンを長時間使用するため、腰・首・目への疲労が大きくなった。
- ・体を動かさないので眠りにくくなった。
- ・対面授業が始まるまで友達ができず不安だった。
- ・ストレスで胃炎になった、抜毛症になった、飲酒喫煙に逃げることがあった。
- ・もし陽性者が出たときに、大学名がでると、関係ない人までそういった対応を受けます。バイト先でも冷ややかな目で見られることだってあるかもしれません。
- ・東京から滋賀に帰るときに、理由もなく偏見的な目でみないでほしい。

有識者・子どもと関わる方へのヒアリング結果 / ③健康・体調面、生活について

- ・「定期受診や病気・ケガ等の治療で、なかなか病院に行きづらく予約できないので困っている」との相談や連絡がある。
- ・ストレスを抱える親御さんが散見、その中でもなんとか解消しようとする方もいれば、子どもにあたってしまうという方もいた。子どものストレス発散方法が分からない、少人数でのレクリエーションをしてほしいとの声もあった。
- ・「お熱ない?」「今日も元気です!」と伝えてきたり、どの子も手の洗い方が上手になったり自分の健康管理に関心を持ち、すすんで行く態度が育ったことはプラスに考えるべきことだと思っている。
- ・マスクをしていない友達に会ったときに「一緒に遊びたくない」と言うことがあった。マスクが常識になっている中で、子どもの中でも無意識に差別が起こっているのかもしれない。
- ・コロナ禍で、子どもたちの肥満、虫歯が増えている。視力が低下している。子どもが体を動かすことのできる場所が学校以外にもあればよいと思う。

すまいる・あくしょん ④ 居場所・相談相手について

- ▶全体として約10%の子どもが食事ができずに困ることがあったと回答したが、ひとりで過ごしていたこととの相関関係は見られなかった。
- ▶少数ではあるが、休業中に親や兄弟から暴力や暴言をふるわれていたという声もあった。
- ▶多くの子どもにとって相談できる相手は親や学校の先生と回答している一方、小学校1～4年生の約14%は困ったときやこれから困ったときに「相談はしない」と回答している。

すまいる・あくしょん④への導き

【子ども】 →気軽に相談できる人、窓口の存在が必要

【大人・社会】 →困っている子どもを見守る、地域のしくみづくりが必要
→子どもたちに相談できる人や場所、相談する方法を伝える



- 頼れる人や場所を見つけよう
- 人とのつながりや喜びを感じられる居場所をつくる



◆休業中「ひとりですごした」子どもの人数

→報告書P5

ひとりで過ごしていた

355人

■小学生(低・中学年)

ひとりで過ごしていた

609人

■小学生(高学年)

このうち、小学校1、2年生は **117人**

◆子どもの声 (アンケート) 自由記述より

- 小学生 / ・ひとりで家にいるのがさびしかった。
 - ・一人っていると話す相手がなくて悲しかった。
 - ・自分が一人の間昼ご飯をどうやったらできるか分からなかった。・自分一人だけだったのでさびしかった。
 - ・子供だけだったから誰か来ないか心配だった。
- 中学生 / ・友達とも会えず、家でずっと妹と留守番してるのはさびしかった。・両親が仕事で休みの時もあったけど、二人でお留守番したりしていたので不安でした。

→「自分ひとりで過ごした」と回答した子どものほうが、「(休業中)規則正しい生活ができた」、「(休業中)家族との会話やかかわりが深まった」に、「あてはまる・少しあてはまる」と回答している割合は低い。



図1-◆休業中、食事ができずに困ることがあった?

図2-◆家族におこられたり、たたかれたりすることが増えたか?

あてはまる / 少しあてはまると回答した割合

→報告書P19、P20

■ 図1

食事ができずに困った

8.8%

あてはまる 3.8%
少しあてはまる 5.0%

■ 図2

怒られること、
たたかれることが増えた

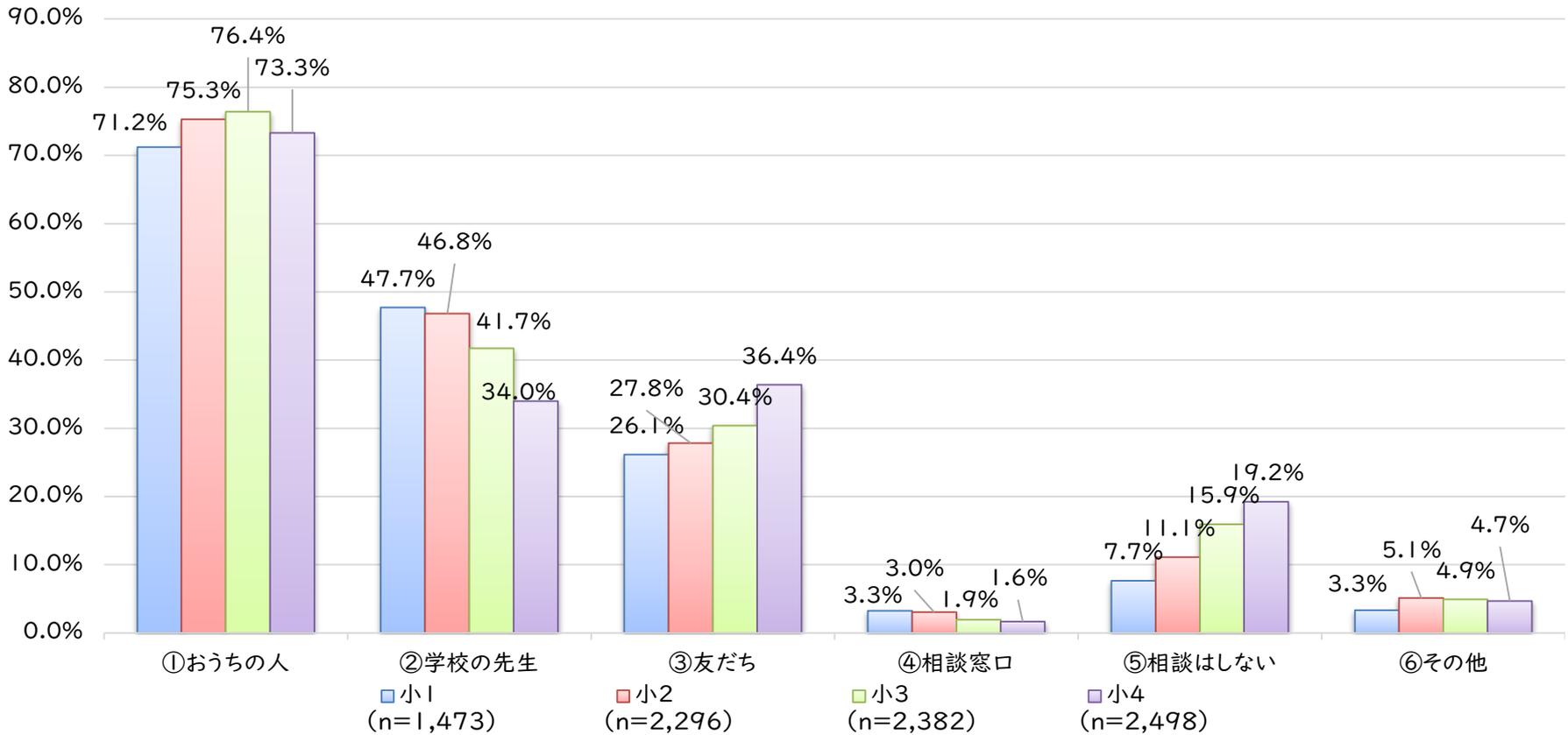
12.1%

あてはまる 4.7%
少しあてはまる 7.4%

子どもの声 (アンケート) 調査結果 / ④居場所・相談相手について



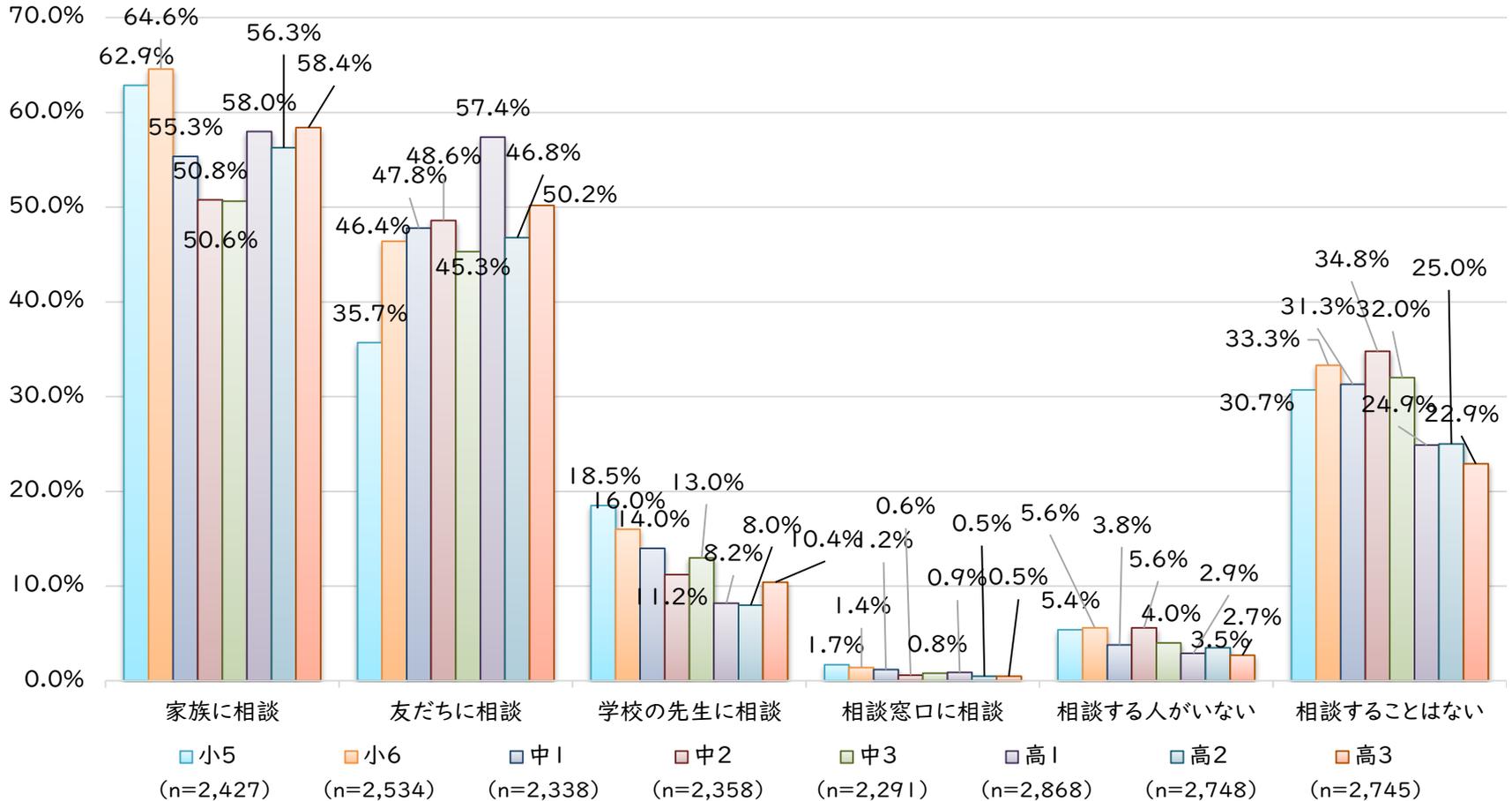
◆困ったことや心配なことがあったらどうした、どうするか? →報告書P42



子どもの声 (アンケート) 調査結果 / ④居場所・相談相手について



◆困ったことや心配なことがあったらどうした、どうするか? →報告書P44



子どもの声 (アンケート) 調査結果 / ④居場所・相談相手について



◆困ったことや心配なことがあったらどうした、どうするか？
という質問に対して「相談はしない」「相談する人がいない」と
回答した人数 →報告書P42,P44

相談はしない
+
相談する人がいない
7.1%

小学生
(低・中年)
14.2%

小学生
(高学年)
5.4%

中学生
4.5%

高校生
3.0%

□大学生 ※記述回答より
・日本の友達がいらない。
・新入生だったので、しばらく
友達も出来なくて困った時に
助けを求められなかった。

→相談はしない、相談する人がいない答えた子どもが
小学校1~4年生の子どもで1227人、小学校5・6年生で269人、中学生で313人、高校生で254人いました

有識者・子どもと関わる方へのヒアリング結果 / ④居場所・相談相手について

- ・小児科など医療が相談窓口になってもいいかと思う。
- ・「歩いていけるところに子ども食堂をつくる」という目標を掲げられたら、これまでリスクを恐れてできなかった人たちも今後できるようになるのではないかと期待している。
- ・子どもの居場所がよく議論されているが、「居場所」を「憩いの場」と言い換えている。子どもたちにとってそこに「安心」と「喜び」があるということが大事。安心とは「責められない」「こわくない」「しゃべらなくてもいい」など。
- ・「オンラインの中でも居場所をつくる」ことについて、今の子どもたちにとってYouTubeがそういう存在だ。(見ているだけの)YouTubeとは違う楽しさとして、「たとえば「しゃべるのがこわい」という子がいるなら、しゃべらなくても参加できるような、滋賀独自の参加型のオンラインの世界をつくれたらよいと思う。
- ・コロナで弱い立場の人がより弱くなったり、「困っている」と言い出しにくくなっており、そういうところに光をあてる施策を検討しなければならない。
- ・子どもに対して「人に迷惑をかえるな」「なんでも自分でしなさい」などと言うと、まじめな子ほど助けを求められない。助けを求めることは人に迷惑をかける、自分でできないと認めることになる。そういう子どもを作ってはいけない。どこかに「助けを求めて」という文言があればと思う。

すまいる・あくしょん ⑤ 運動・遊びについて

- ▶子どもたちが健やかに育つために、未就学児の保護者の約90%がのびのびと体を動かして遊べる場所・機会を必要と回答。
- ▶「TVやDVDを見ている時間が増えた」（未就学児の約60%）、「ゲームをしたりSNSで動画を視聴したりするのが増えた」（小学校高学年～高校生の約85%）という声が多かった。
- ▶小学生（高学年）では約30%、中学生では約40%、高校生では約50%が休校中に体力作りに取り組んでいなかったと回答
- ▶小学生（高学年）から高校生では、休業中に体力作りに取り組んでいた方が、休業中、学校からの課題に取り組んだり、読書や趣味などで時間を有効に使えたと回答した割合が高く、また、学校再開後に学校に行くのがしんどいと思う割合が少ない。

すまいる・あくしょん⑤への導き

【子ども】→元気よく遊ぶのが大事

→学校生活を充実させるためには体力が必要

→身体を動かすことは体力づくりだけでなく、リフレッシュにもなり、心の成長にもつながる

【大人・社会】→親子で楽しく遊びながらできる運動を探してみよう

→運動する場所、運動を教えてくれる人も必要



● 身体を動かしてしっかり遊ぼう

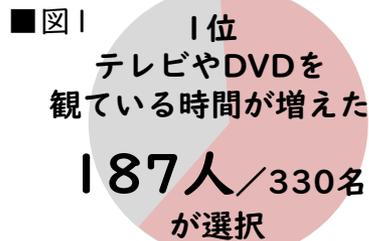
● のびのびと遊び、育つための環境を守る

子どもの声 (アンケート) 調査結果 / ⑤運動・遊びについて



図-1◆外出自粛期間中、お子さんの日常の生活の様子で変化があったことは? →報告書P64

図-2◆コロナ渦の中であっても子どもたちが健やかに育つために必要だと思うことは? →報告書P69



◆未就学児の保護者の声

- ・外遊びをしていると注意されてこもってしまった。
- ・散歩も行けず、運動量が足りているか心配。
- ・外遊びが減って、運動神経が悪くなるのではないかと漠然な不安がある。
- ・屋外、室内で遊べる所の一覧があれば助かる。



◆休校中、良かったことやうれしかったことは?という質問に対して

「**身体を動かして遊んだこと**」に関する内容で回答した子ども **970名**
※小学校全体

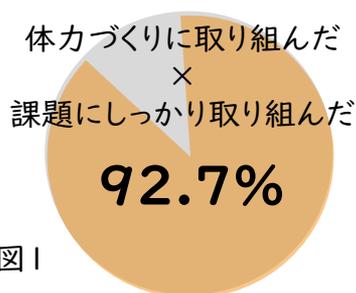
◆子どもの声 (アンケート) 自由記述より

- 小学生(低・中学年) / ・うんてい楽しかったです ・グラウンドでサッカーをするのが楽しかった
・(休業中)学校のグラウンドで遊べた ・体育館でいっぱい遊べてうれしかった。
- 小学生(高学年) / ・ゲームの時間が増えた。・近所の子たちと公園でドッジボールをした。・公園の遊具が使えるようになった。
・友達と走れた。・本当は外で遊びたいけど遊べなかった。ボール遊びが全面的にできなくなった。・「みんなは外で遊んでいるのになんで遊ばないの?」と責められてどうすればよいか分からなくなった。けど、学校が始まってからまた遊ぶようになった。
- 中学生 / ・オンライントレーニングをした。・外で運動ができなくて、体がなまけていて、頭痛に困っていた。
- 高校生 / ・運動をする時間が増えた。・運動不足になってしまった。
- 大学生 / ・運動不足とずっと家にいるストレスで鬱気味になった。・通学がなくなり、外出自粛で外に出ることも無く、毎日パソコンで授業を受ける生活が続き、生きている実感がわからない。・免疫が落ちないように出来るだけいつも通りの生活を送った。
・生活リズムは崩さない。毎朝、早朝にランニングして体を少し鍛えた。

子どもの声 (アンケート) 調査結果 / ⑤運動・遊びについて

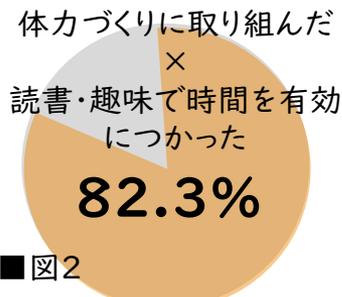


- 図-1◆休業中、体力づくり×課題についての関係性
- 図-2◆休業中、体力づくり×読書・趣味で時間を有効につかった関係性
- 図-3◆休校中の体力作り×再開後、学校に行くのがしんどいと思うこととの関係性



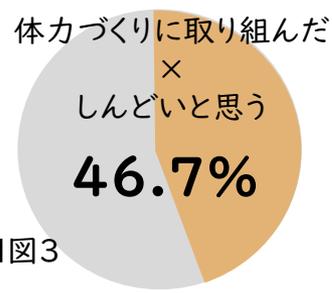
■ 図1

→全体の割合89.2%



■ 図2

→全体の割合79.0%



■ 図3

→全体の割合57.4%

■小学生 体力づくりに取り組んだ 69.0% ■中学生 体力づくりに取り組んだ59.5% ■高校生 体力づくりに取り組んだ49.0%

有識者・子どもと関わる方へのヒアリング結果 / ⑤運動・遊びについて

- ・「遊ばせる場所がない」「外に出るのが怖い」「実家に帰りたいが帰れない」などという声が聞かれた。
- ・子育て支援施設が事前予約制となり、子どものその日の調子で出かけるかどうかを決めていた親にとっては利用が難しくなった。上の子がずっと家にいて大変。
- ・万一感染者が出た場合の不安もあるが、外に出られない乳幼児や保護者の受け入れも必要であると感じているので、葛藤しながらの活動となっている。
- ・運動場、遊戯施設の場所や開放の情報などを行政から明確に打ち出してほしい。

すまいる・あくしょん ⑥ 体験・学びについて

- ▶未就学児の保護者の多くが、子どもの健やかな成長のためには、いろんなお友だちと出会え場所・機会が必要と考えている。
- ▶これまで普通にあった行事が減ってしまい、子どもたちは残念に思っている。
(小学生(高学年)から高校生では約70%が回答)。
- ▶大学生では、大学に行っていない、アルバイトが減ったなど体験・学びの機会が減少している。
- ▶保育者から「好奇心の塊の世代に、コロナ禍であってもわくわくを持ち続けられるような関わりができていのか心配」という声があった。

すまいる・あくしょん⑥への導き

【子ども】→体験を通じて様々な学びへとつなげる

【大人・社会】→子どもたちが今、体験すること、体験できることの重要性について慎重に議論していく
→様々な体験を実行するために感染予防にもつとめる
→未来ある子どもたちのために社会全体が理解協力していく体制が必要



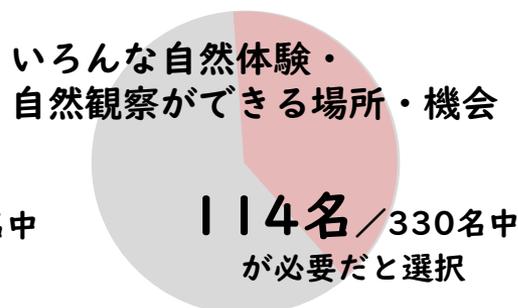
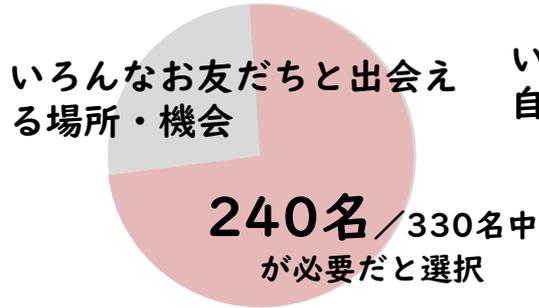
●わくわく感動する気持ちをもとう

●文化・芸術・自然・社会に触れる体験を増やす

子どもの声 (アンケート) 調査結果 / ⑥体験・学びについて



◆コロナ禍の中であっても子どもたちが
健やかに育つために必要だと思うことは? →報告書P69

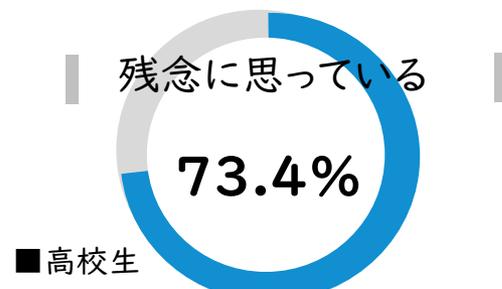
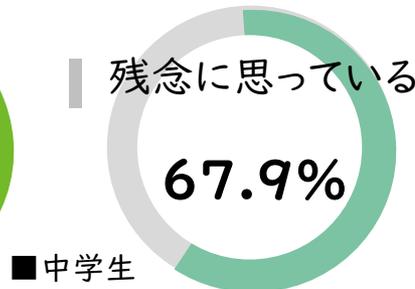


◆未就学児の保護者の声 (アンケート)

- ・地域の子育てサロンを通常に戻してほしい。
- ・今は一番吸収する時期なので、いろんな人に関わらせてあげたい。
- ・家でプールをした。
- ・子どもが非日常を逆に楽しめるようなアイテムを自宅に届けていただけたら喜ぶと思う。



◆学校や地域の行事が減り、残念に思う?
あてはまる / 少しあてはまると回答した割合 →報告書P40



→高校2年生が一番多く、75.2%だった。体育祭や夏祭りが
なくなって残念だったと自由回答でも多く上がっていた。

◆子どもの声(アンケート)自由記述より

- 小学校(低・中学年) / ・貝殻あつめ。・かぶとり、くわがたり。・やぎさんを見にいった。・海に行って釣りをした。
・学校でザリガニをとりにいった。・動物園に行った。・秘密基地をつくった。・友だちに会えない、遊べなくて悲しかった。
- 小学生(高学年) / ・夏休みが減って悲しかった。・イベントがたくさん中止になって6年生なのに6年生じゃない感じがする。・サッカーができない。・習い事がなかった。・カラオケにいけない。・買い物にいけない。
- 中学生 / ・卒業式で寄せ書きがもらえなかった。・修学旅行にいけなかった。・職業体験がなくなった。・部活のコンクールがなくなった。・映画に行けなかった。
- 高校生 / ・卒業式がいつもとちがった。・定期演奏会がなくなった。・文化祭、体育祭が中止。・部活がなかった。
・高体連がなくなった。・部活の引退が唐突だった。・卒業旅行に行けなかった。・ユニバに行けなかった。・ライブやイベントが中止になった。・暇だった。・バイトが全部なくなった。・琵琶湖一周ができた。

子どもの声 (アンケート) 調査結果 / ⑥体験・学びについて



◆コロナの影響により困ったことについて
困った/少し困ったと回答した割合
→報告書P53~55

勉強について困った

75.1%

研究、実習について困った

60.3%

◆子どもの声 (アンケート) 自由記述より

- 大学生/・医療現場に立たされたとき、再現できる自信がない。
- ・動画だけでは理解できなかった。
- ・コロナ対策で少し肩身が狭かった。

→大学生の体験・学びの機会が減少している。

- ◆2020年4月以降、大学に行っていない…33.6%
- ◆アルバイトをしていた大学生の内、
アルバイトが減ったもしくはやめた…45.3%
- ◆4回生の内、就職活動に困った/少し困った…58.0%

有識者・子どもと関わる方へのヒアリング結果 / ⑥体験・学びについて

- ・修学旅行については、子どもたちが一緒に寝ることがどこまでリスクになるかは、今後の課題だと思うが、滋賀県内でも子どもたちにとっては一生の思い出にもなると思うので冬の状況など徐々にみながらできる限り制限を解除していく方針がいいと思う。
- ・行事の縮小や内容の変更、遊びの制限に関して「コロナやからな」とつぶやきの中で聞いたり諦めたりする姿を見る機会が多くなり大変心が痛む。
- ・大会が全て中止になり、子どもたちのモチベーションが下がっているので毎回試行錯誤している。
- ・最後の大会がなくなり部活での達成感がなく、消化不良のまま進路に向けて頑張れるのか不安である。
- ・コロナを理由に諦めることに慣れてしまわないか心配。好奇心の塊の世代に、コロナ渦であってもわくわくを持ち続けられるような関わりができていくのか心配。

すまいる・あくしょん ⑦オンライン交流・学習について

- ▶学年が上がるにつれ、休業中にオンライン交流を行った子どもの割合は多い。
(小学生(高学年)約40%、中学生約60%、高校生約70%)
- ▶休業中、小学生(高学年)から高校生の約40%が「オンライン学習に取り組んだ」と回答。
- ▶小学生高学年から高校生の約85%が、休業中に「ゲームをしたり、SNSで動画を視聴したりする時間が増えた」と回答。
- ▶大学生から「リモートでも絆は深まる」、「一般教養などは、web授業のほうがいいと思った」といった回答があった一方、「学校に通うのが面倒に思う時もあったが、オンラインの方が何倍も面倒なことが分かった」といった回答もあった。

すまいる・あくしょん⑦への導き

【子ども】 →スマートフォンやインターネットなどの使い方、ルールを考えていく
→対面でのコミュニケーション力も高める

【大人・社会】 →子ども社会の中のオンラインの使い方やルールを一緒に話し合える機会をつくる
→オンラインのメリット、デメリットを把握する
→オンライン授業を誰もが同じ状況で受けられるインターネット環境の整備と授業内容の配慮が必要



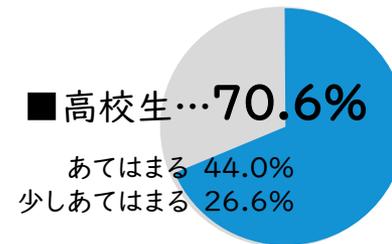
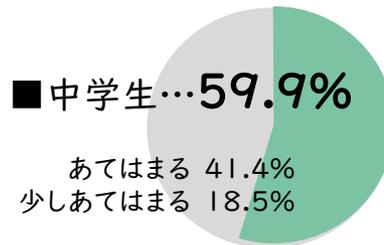
●オンラインを上手に活かそう

●オンラインを活かすための環境を整備する

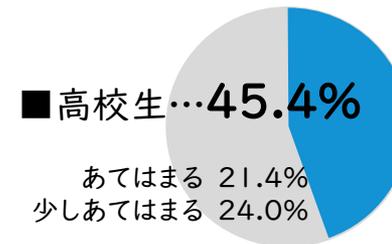
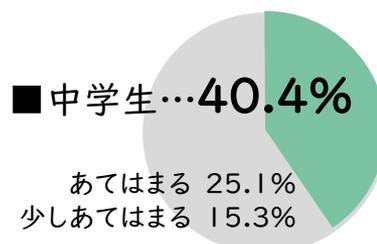
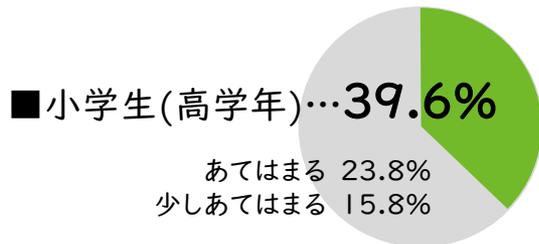
子どもの声(アンケート)調査結果 / ⑦オンライン交流、学習について



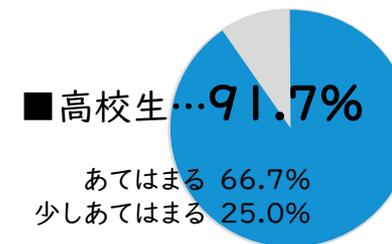
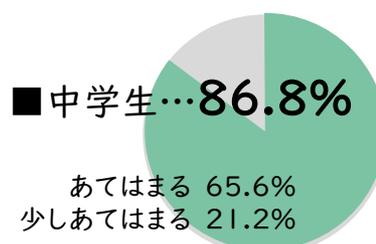
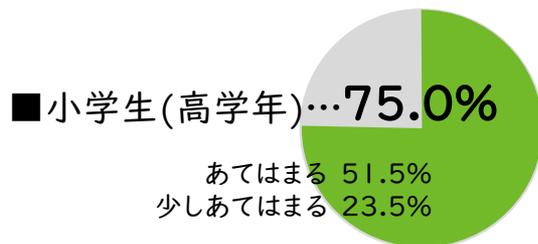
◆休業中、オンラインで友だちとの交流を行った?
あてはまる/少しあてはまると回答した割合 →報告書P16



◆休業中、オンライン学習に取り組んだ? →報告書P15



◆休業中、ゲームをしたり、SNSで動画を視聴したりする時間が増えた? →報告書P17



子どもの声(アンケート)調査結果 / ⑦オンライン交流、学習について

◆子どもの声(アンケート)自由記述より

- 未就学児の保護者 / ・いつ休園、休校になってもいいように、オンライン授業やオンライン交流を充実させて欲しい。
 - ・先生から絵本の読み聞かせ、体操などしてもらえると、生活リズムのメリハリも出来ると思う。
 - ・買い物はオンラインを活用する。
- 小学生 / ・インターネットなどの情報をとれるのは便利。・早く児童にパソコンを配ってください。・友だちと休みの間でもオンラインで会えた。・オンラインなどでいつもと違って、混乱してしまった。・自粛でインターネットに触れる機会が増えていて犯罪者もいます。インターネットにかんしての条例を強くしていただきたいと思います。
- 中学生 / ・早くオンライン授業の準備をするべきだ。・オンラインでの人の関わりが増加した。・インターネットでいろんなことを知ることができた。・家でネットを使って授業を受けられるようにしてほしい。
- 高校生 / ・学校とのネット環境が悪かったこと。・オンラインの活用が増えて、インターネットを通して何かすることのすごさを知りました。・インターネット環境をもっと良くして、学校の整備を整えてほしい。・インターネットを使った授業(zoom etc)をすれば良かったのになと思った。
- 大学生 / ・動画だけでは分からないことがあった。・オンライン授業ではなかなかコミュニケーションがとれない。
 - ・リモートでも絆は深まる。・オンラインでの便利さを実感した。・一般教養などは、web授業のほうがいいと思った。
 - ・オンライン授業は全く身に付かない。・学校に通うのが面倒に思う時もあったが、オンラインの方が何倍も面倒なことが分かった。

有識者・子どもと関わる方へのヒアリング結果 / ⑦ オンライン交流・学習について

- ・オンラインについては、あくまで道具であって、便利さを追求するもの。
- ・オンラインで交流することを覚える前に、人とのコミュニケーション力をつけることも重視すべき課題だと思う。
- ・SNSやゲームをする時間が増えているのも問題だ。

「すまいる・あくしょん」策定について

実施主体：滋賀県健康医療福祉部子ども・青少年局

事業受託：三方よし!子どもの笑顔プロジェクト実行委員会

実行委員会構成団体：一般社団法人ママサポートコミュニティ／子育て応援カフェLOCO／子育て応援hug組
滋賀子育てネットワーク／ファザーリング・ジャパンしが／ほんわかハート／ママサポートおおつ
ママサポートくさつ／ママサポートこうか／ママサポートこなん／ママサポートひこね
ママサポートもりやま／楽育のたね ※50音順

有識者委員名：浅井大介(あさいこどもクリニック院長)
角野文彦(滋賀県健康医療福祉部理事)
北居理恵(湖北子ども食堂「リエゾン」代表、滋賀県スクールソーシャルワーカースーパーバイザー)
久保川雅子(多賀町立多賀小学校校長)
宮沢孝幸(京都大学ウイルス・再生医科学研究所 准教授)
吉川芳恵(滋賀県子ども・青少年局 教育・保育指導員) ※敬称略、50音順

ヒアリングにご協力いただいた方：

保育士／保育園長／地域型保育施設長／乳幼児教室施設長／子育て支援員／小学校教員／小学校支援員／放課後児童クラブ施設長／中学校教員／高校教員／特別支援学校教員／放課後等デイサービス職員／塾講師／英会話教室講師／音楽教室講師／スポーツ指導者／子育てサークル指導者／理学療法士／メンタルサポーター